

阿蘇の素晴らしさを、阿蘇の人に知ってもらう、阿蘇の人のための情報紙。

aso lulu

【アソルル】

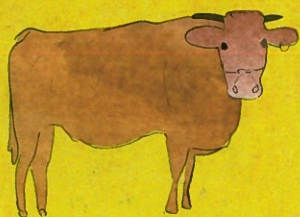
lulu(ルル)=素晴らしい魅力という意味。

since 2012



vol.18
2018

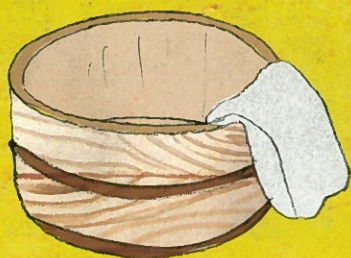
FREE



yamato cho



takamori machi



oguni machi



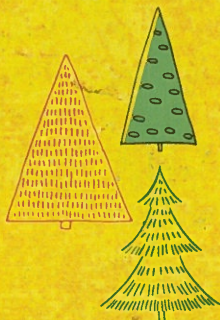
minamioguni machi



aso shi



nishihara mura



ubuyama mura

##



熊本地震から2年。復興を目指す阿蘇は1歩ずつ、未来に向かってその姿を変えています。人々の心の中にも、忘れることのできない変わらない思いと、復興への想い、それぞれのパズルが重なり合いながら、前へ進もうとしています。あの頃と今、そしてこれから。進み続ける時計の針はそれぞれの心を刻み続けていきます。

3年目を迎える熊本地震 被災地「阿蘇」

写真家 長野良市



発災当日からひたすら
シャッターを切り続けている
南阿蘇村在住の写真家 長野良市
さん。甚大な自然の猛威や、そこから立ち
上がろうとする人々の力を映し出す1枚1枚、
目を覆いたくなる風景も、人々の不安や
悲しみ、そして希望を撮り続ける長野さん
の姿にこの時代に生きている、語り
継がなければならない使命感を
感じさせてくれます。

熊本地震発生からはほぼ500日を要して
2017年8月に阿蘇長陽大橋が開通。今年に
入り俵山トンネル西原村側の県道28号が仮
開通して俵山峠道から開放された。外輪山
越えの道がつながっていたとはいえ、道路の
復旧は阿蘇の孤立化を解消したと言える。
確実にインフラの整備が進んでいるが、まだ南阿蘇鉄道とJR豊肥本線の鉄道はつながらず、
完全な復旧の見通しは見えてこない。



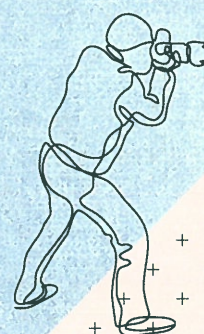
南阿蘇村の温泉地の象徴であった地獄温泉と
垂玉温泉の解体工事が昨年暮れから始まり、現在、
垂玉温泉山口旅館の解体が行われている。観光地
阿蘇の復旧が3年目に動き出しているという感
想だが、肝心要の阿蘇の出入り口の阿蘇大橋と
二重峠トンネル完成までに、確実に魅力的な阿蘇の
情報がどれだけ出ていくのが大事である。



南阿蘇村の旧長陽地区が故郷の私には、甚大
な被害が集中したこの地域の過去の歴史と現実を
語り続けなければならない。そこには世界に誇れる
阿蘇の姿を通して、今回の地震による厳しい風景
の一面を阿蘇の歴史の1ページとして書き込まな
くしてはならないと考えている。



Ryoichi Nagano



阿蘇神社と共に歩む。

店先で阿蘇神社の景色を毎日眺め続けている宮川さんはこの2年間で様々な思いを抱いています。「楼門の解体作業のため大きな素屋根が撤去され、3つの神殿が表の参道からも拝むことができるのは地震から2年が経ち復旧工事が進む、今しか見れない阿蘇神社の貴重な風景ですが、ここから眺めるたびに寂しさを感じます。

そんな中で、『これまで以上に頑張らないといけない。』と商店街の若い人たちが助け合い、努力し、賑わいを取り戻しはじめています『新しい街の姿』も見られます。あっという間の2年間でしたが、訪れる観光客の方々から今でも応援の言葉をかけてもらう事が多く、感謝の想いは尽きません。皆の心のよりどころである阿蘇神社の再建を願いながら、阿蘇神社に守られた商店街も、先代たちの思いを受け継いで前に進んでいきたいと思っています。』



Koji Miyagawa

みやがわ時計店
店主 宮川 幸二さん



素屋根が解体された阿蘇神社



多くの人でにぎわったお座敷商店街

南阿蘇の大自然を感じてほしい。

地震で崩落した阿蘇大橋のそばでレストランを営んでいた増田さんは、周りの人からの協力や応援を受け、昨年8月からキッチンカーでの営業を再スタートさせました。その傍ら、村内の久木野キャンプ場の運営も任せられ、南阿蘇の大自然を満喫する新たな体験型の観光を目指し準備を進めています。地震後は村内の小学校を周り、木登りを楽しむアクティビティ『ツリーイング』の体験会を開き、被災した子どもたちに「自分たちが住んでいるこの村の素晴らしさ」や「大自然で遊ぶ楽しさ」を伝えてきました。地震から2年が経った今、この村で被災し、同じ志を抱く仲間たちと共に、地震を機に生まれた新たな想いで様々なことに挑戦しようとしています。「他業種でも、同じ境遇に立たされた人々と繋がりがあい、話し合うことで様々な想いやアイデアが生まれてきた。地域を見つめ直し、理想を求め更に繋がりを深めていきたい。」と話す増田さん。キャンプ場でも、新しい阿蘇の過ごし方を考えながら、星空を楽しむナイトハイクや草野を歩くツアーなどを企画、「たくさんの人々が遊びに来ていた頃の賑わいを取り戻したい!」と笑顔で語ってくれました。



Kazumasa Masuda

Minaaso マルデン
増田 一正さん
(アウトドアクラブ 南阿蘇knot 代表)



レストラン時代の当時の味をそのままに
“あか牛ローストBeefカレー”



森の中で空中に浮かぶテント
(キャンプ場で貸出OK)

大好きな町を伝えたい。

地域おこし協力隊として木魂館に席を置いていた松井さん。発災当時は避難場所として施設が開放されると、多くの地元の人が頼って集まり、案内や毛布を配って回ったといいます。小国町は県内でも被害は少なかったものの、阿蘇と大分をつなぐ道路も被害を受け、風評被害もあって当時は利用者も激減していました。『小国暮らしの窓口』として移住定住を勧める業務をしていた松井さんにもその影響は大きく、「地震の影響もあって移住定住の問い合わせも減り、懸命にPR活動や情報発信を続けてきました。今では施設の利用者も増え、昨年末から今年に入っては、移住定住を望む人たちが地震前ほどに戻ってきているのを肌で感じます。私もこの町が大好きで、人々の繋がりがや良質の温泉、新鮮な野菜など、その魅力をもっともっと多くの人に伝えたい。」と、協力隊の任期を終えた後も残ることを選び、現在は木魂館のスタッフとして移住定住の業務を引き継いでいます。「町に人が増えて集落が賑わい、何より大好きなこの地域の人達が一番喜んでくれる仕事にこれからも携わっていきたい。」この町に魅了され定住を決めた笑顔あふれる松井さんの言葉と想いが、地域に新たな笑顔を咲かせてくれます。



Miyuki Matsui

一般財団法人
学びやの里 木魂館
スタッフ 松井 美佑紀さん



山々に囲まれた人気の研修施設「木魂館」



ごはん処「北里バラン」では
湧き山が望めるデッキも完成!

其の一



「世界が認める観光サービスを目指して」

阿蘇くじゅう観光圏観光品質認証制度 「サクラクオリティー」



「SAKURA QUALITY」とは、一般社団法人の観光品質認証協会(東京・千代田)が設けた基準で、世界中の旅行者に、日本のホテルや旅館の質の高い観光サービスに関する情報提供を行い、安心して快適な旅行を楽しんでいただくための仕組みです。

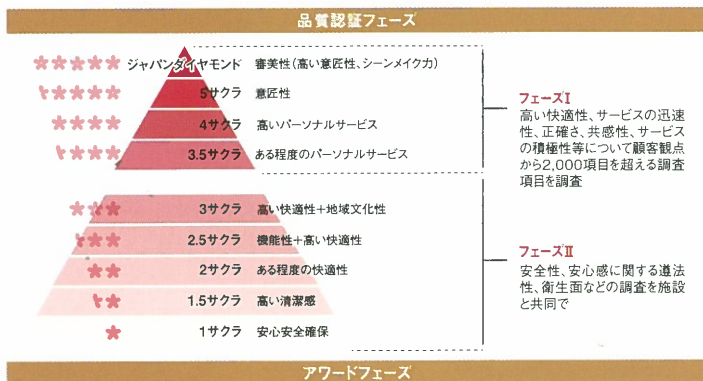
一定の品質基準を満たし、厳正な審査を経た宿泊施設が認証を得ることができます。

この取り組みは、全国各地の観光圏でも採用されており、阿蘇くじゅう観光圏でも平成29年度から、全国13の観光圏と連携して、取り組みを開始、デザインセンターも調査員としての資格を得て、これまで黒川温泉や内牧温泉など15の施設を調査、安全性、快適性、機能性等をクリアしたホテルや旅館が認証されました。

平成30年度も、質の高い観光サービス情報を、世界に向けて発信するとともに、サービスレベルの維持向上を目的とし実施いたします。



例えばフロント調査では、フロントカウンターの清潔さや事務書類が見えていないか、スタッフが笑顔で、丁寧な挨拶やサービスが徹底されているか等、細部まで2,000項目を超える調査で第三者の目線で確認調査を行います。外観や客室のハード面から接客や食事のソフト面まで300を超える項目にて評価を行い、圏域内の宿泊施設を1～5つのサクラ印で表し、外国人観光客向けにWEBサイトなどでの情報発信を行います。



阿蘇くじゅう観光圏は、「阿蘇カルデラ、命きらめく草原の王冠」と呼ばれる、観光圏整備法に基づいて認定された観光圏です。熊本県の阿蘇地域、宮崎県の高千穂、大分県のくじゅう地域にまたがり、下記の自治体(2市5町3村)を含みます。

【熊本県】

阿蘇市、阿蘇郡南小国町、小国町、産山村、高森町、西原村、南阿蘇村、上益城郡山都町

【宮崎県】 高千穂町

【大分県】 竹田市

〈お問い合わせ〉

公益財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター

〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地4607番地1

TEL 0967-22-4801 FAX 0967-22-4802 <http://www.asodc.or.jp>



其の二 「阿蘇の花々を楽しんで！」



あそフラワーツーリズム

阿蘇の自然は私たちを大らかに迎えてくれます。野焼きを終えた、阿蘇の草原は柔らかな緑に被われ、目にやさしくほのかな香りもあり、阿蘇の息吹を五感で感じます。

芽吹きが始まると、阿蘇の各地にツツジやシャクナゲ、淡い紫のヤマフジが咲き誇り、夏の夕暮れにはユウスゲ、秋にはススキ、紅葉も見ごたえ十分です。

熊本地震から2年、阿蘇に春が訪れました。阿蘇には、一心行の桜など桜の名所がいくつも有り、合わせて平成29年度くまもと里モンプロジェクト推進事業の補助を受けて、「復興・復旧」の景観づくりの一環として、各地にチュウリップを植栽しました。

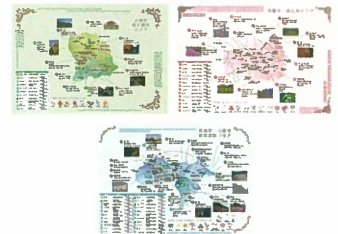
阿蘇の花を愛で、心を癒す。そこで出会った人との交流、それが「あそフラワーツーリズム」です。



あそ花旅

春を迎えると、「〇〇地区の芝桜がきれいだよ」「△△地区のシャクナゲは見事だよ」秋になると「〇〇地区はコスモスが満開になった」「△△渓谷の紅葉が見ごろだよ」など、阿蘇の各地から花の便りが聞こえてきます。阿蘇地域振興デザインセンターでは、阿蘇地域に咲く花の名所を調べ、この度マップを作成しました。各地区には温泉が有り、風景も楽しめ、おいしいグルメ(ランチ)も有ります。マップを手に持ち、花の名所を訪れることが、「あそ花旅」です。お誘い合わせの上、阿蘇を巡ってください。

※阿蘇地域の道の駅や物産館で配布



其の三 「魅力ある阿蘇を発信し、移住定住者を呼び込もう！」



阿蘇回帰運動(移住・定住)

阿蘇地域では、従来からの過疎化に加え、今後、熊本地震を機に阿蘇地域全体で人口の減少の加速化が予測されており、市町村財政への影響や産業の担い手不足が心配されています。そこで現在、各自治体及び関連団体で実施している移住・定住に係る取組みの情報をまとめ、「移住定住希望者に好感度の高い阿蘇地域」の詳細な情報の発信・提供を行っています。



【移住・定住相談会の開催】

東京や大阪、福岡で開催される移住・定住を目的としたフェアや相談会への参加。



【阿蘇留学調査研究】

人口減少社会を迎えたわが国において、移住・定住のターゲットとして「首都圏などの中学生」の高校受け入れに絞り「島留学」や「しまね留学」を参考に「阿蘇留学」構築について調査研究します。

【大学との連携による地域活性化】

平成29年度には包括連携協定を結んだ熊本大学などと協力し、地域住民との交流を通して地域の活性化に取り組みます。



阿蘇地域元気再生支援事業

阿蘇地域振興デザインセンターでは、その地域独自の資源を活かした取り組みや、伝統行事再生に向けた試み、地域に根差したイベントの実施、熊本地震からの復興に向けた活動など、魅力ある地域づくりと地域の活性化を図ることを目的とした事業に対して助成を行っています。

南小国町

米Fes／米Fes実行委員会

米農家と消費者を繋ぐイベントとして、南小国町の波居原地区で実施されました。このイベントは南小国町の米の消費拡大を目的に、南小国町の新米を阿蘇地域や熊本県ゆかりのご飯がすすむおかずとともにいただくものです。



湯あかり拡大事業／南小国町観光協会

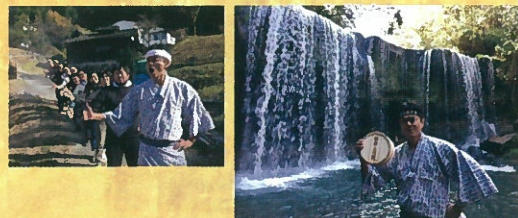
黒川温泉で冬季に取り組んでいた「湯あかり」を南小国町に拡大しました。南小国町の観光における冬の目玉をつくるため、竹灯籠づくりのワークショップを開催し、黒川温泉だけでなく田の原温泉や小田温泉など周辺の温泉地や、町民の自宅にも竹灯籠を飾りました。



小国町

小国町観光動画制作事業／小国町観光振興会議

小国町の温泉にスポットを当てたドラマ仕立ての約30分の動画を制作しました。温泉俳優として知られる原田龍二氏を主演に迎え、11月中旬に撮影を行いました。完成後は旧映画館を利用して上映会を開催。現在、動画は動画配信サイト「Youtube」で視聴が可能です。「温泉兄貴」で検索。



西原村

あとき、この一年 陶芸8人展～それぞれの歩み～／阿蘇熊本復興陶芸家の会

熊本地震で被災した阿蘇地域の窯元が、復旧復興の只中にあっても作陶を続ける「復興陶芸家」として、阿蘇地域や自分たちの現状を正しく理解してもらうための作品展を福岡市のアクロス福岡にて開催しました。



西原村復興夏祭り／西原村商工会青年部

熊本地震の被災をきっかけに、地元住民に元気になってもらおうと始まった「西原復興夏祭り」は今回で2回目の開催です。今年は西原村の観光振興や地域経済の活性化を目的に村外の方々にもイベントを周知しました。



阿蘇市

阿蘇マウンテンバイクパークプロジェクト／ 阿蘇サイクルツーリズム学校「コギダス」協議会

阿蘇サイクルツーリズムの一環として阿蘇市内牧に設置する“阿蘇マウンテンバイクパーク”に貸出用のマウンテンバイクやヘルメット、安全柵を整備しました。観光客のみならず地域の住民や子どもたちにも利用していただくことで、内牧周辺地域の活性化を目指します。

平成30年4月OPEN!



うちのまき案内の極意書／うちのまき案内人協会

平成30年で内牧温泉は開湯120年を迎えます。これを機に訪れる観光客をもてなすため、うちのまき案内人協会がこれまで培ってきた資料やデータを一冊にまとめた「極意書」を制作しました。熊本地震によって観光客が減少した内牧温泉のリピーターを増やし、内牧温泉街に賑わいを取り戻します。



高森町

野の花コンサート

阿蘇地域の自然保護を目的として、阿蘇地域の希少な動植物の生態系を広く周知するため、阿蘇地域の動植物を身近に感じられるイベント・コンサートを開催しました。



カレーのパッケージ作成事業／一般社団法人TAKAraMORI

ジオパークブランド認定審査会で最優秀賞を受賞した高森町オリジナルブランドの「根子岳カレー」のパッケージを作成しました。根子岳カレーは、あか牛、りんどうポーク、高森町特産の赤ナス・ヒゴムラサキを使用し、南阿蘇産トマトの水分のみで作った特別なカレーです。



WaterForest改修事業

高森町湧水トンネル前に店を構えるカフェ・レストラン「WaterForest」の改修を行いました。上記で取り上げている「根子岳カレー」はWaterForestでもお求めいただけます。



産山村

観光案内板整備事業

産山村内の老朽化した観光案内看板を改修し、外国人のお客様にもわかりやすい表示を追加するなどの改良をした新しい看板を設置しました。



山都町

蘇ジョレーヌーボーとあか牛まつり／蘇ジョレーヌーボーとあか牛まつり実行委員会

阿蘇地域の特産である“あか牛”と、山都町特産の“ブルーベリーワイン”、隣接する五ヶ瀬町で生産される“五ヶ瀬ワイン”を活用し、特産品の消費・販路の拡大を図りながらも「あか牛とワイン」を楽しむイベントを開催しました。



「共に前へ」

拝啓、春暖の候、皆さまにおかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、北里耕亮理事長(小国町長)のご退任に伴いまして、昨年6月の理事会にて、新理事長に就任いたしました高橋周二(南小国町長)でございます。

さて、熊本地震から約2年。甚大な被害が発生した阿蘇地域では、JR豊肥本線・国道57号線・南阿蘇鉄道などの主要なアクセスがいまだに一部不通であり、その影響は、通勤・通学などの暮らしはもとより、主要な産業である観光業にも重くのしかかっています。

当財団では、対応策として、交通アクセスなどの的確な情報発信に努める一方、新たにWEB上で阿蘇地域の情報の一元化や多言語化に取り組んでいます。

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催などに伴う訪日外国人増へ向けた取り組みを核に「阿蘇くじゅう観光圏整備計画」を策定し、地域連携DMOの登録を受け、観光業のみならず地域産業全体の向上に努めます。

さらに、人口減少による各種産業の担い手不足を深刻に受け止め、「阿蘇回帰運動」(移住・定住)として、大都市での阿蘇地域移住定住相談会の開催を行っています。

つきましては、役員を始め一同新たな決意をもって「共に前へ」努力してまいりる所存でございますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。 敬具

Shuji Takahashi



(公財)阿蘇地域振興デザインセンター
理事長 高橋 周二

「日本版地域連携DMOとして」

陽春の候、皆さまにおかれましては、日頃より、当財団の活動に対し、心温まるご支援を頂き深く感謝申し上げます。

さて、当財団は、平成30年3月末に、阿蘇くじゅう観光圏の地域連携DMO(観光地域づくりプラットフォーム)として登録されました。今後は、九州3観光圏地域連携DMO(阿蘇くじゅう・海風の国・千年ロマン)を始め、県内外の日本版DMOとも連携し、阿蘇地域の発展と振興に努めてまいります。ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

Kunshige Eto



(公財)阿蘇地域振興デザインセンター
事務局長 江藤 訓重



ツーリズムEXPOジャパン

<事務局員の動き>

4月1日付けで、山部義博事務局員が、2年間の派遣期間を終え、阿蘇市財政課に異動となりました。新たに西原村から佐藤光弘さん(前税務課)、南阿蘇村から工藤眞巳さん(前農政課)が、事務局員として着任しました。

このたびの異動により阿蘇市 総務部 財政課勤務を命ぜられました。当財団在勤中は公私にわたり格別なご厚情を賜り、ありがとうございました。市町村の垣根を



山部 義博

越えて活動するなかで、様々な分野における経験は、これからの職務の遂行にあたり大変価値があるものと思っております。なにより、皆様と出会えたことが本当に幸せなことであり、事務局の皆様のサポートがあったからこそ励むことができました。新任地におきましても精励いたす所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

西原村役場から出向で来ました佐藤です。今年の3月末定年退職して再任用という形ですが、前職が固い仕事でしたので、新たに再就職した気持ちで柔軟な頭に切り替えることから始めたいと思います。片道約1時間の通勤時間も何のその。早起きは得意ですので、阿蘇の山々や外輪山を眺めて楽しく通勤しております。不安半分・やる気半分ですけれども、早く阿蘇DCの一員として認めてもらえるよう、新天地で新入職員のつもりで頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。

Mitsuhiro Sato



佐藤 光弘

このたび、南阿蘇村から出向して参りました工藤眞巳と申します。役場に勤務しております時は、片道通勤時間10分程度でしたが現在は40分の通勤時間で阿蘇の山々を眺めながら癒されながら通勤をしております。熊本地震から2年を向かえ、まだまだ復興も道半ばではありますが、阿蘇の地域振興、活性化、さらに元気な阿蘇を発信できるよう精一杯頑張りたいと思います。まだまだ不慣れな点も多く、勉強不足なところも多々ありますが、よろしくお願い申し上げます。

Masami Kudo



工藤 眞巳

公益財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター

〒869-2612

熊本県阿蘇市一の宮町宮地4607番地1

TEL 0967-22-4801 FAX 0967-22-4802

<http://www.asodc.or.jp>

